



-----> シンプルに見えるが実は深い。心がほぐれるもの。 すべての本に通じる入り口。 純粋な気持ちを思いださせてくれるもの。 ほっと開けるおはなしの世界。 いつもそこにあるもの。

図書館スタッフに訊く
**あなたにとって
絵本とは？**



『トマトさん』



『ルリユールおじさん』



『あおくとときいろちゃん』



『ぐるんぱのようちえん』



『しろいうさぎとくろいうさぎ』



『いいからいいから』



『三びきのやぎのがらがらどん』



『金曜日の砂糖ちゃん』



『11びきのねことあほうどり』



『ジス・イズ・ロンドン』



『おふるだいき』

『ルリユールおじさん』理論社
いせひでこ / 作 (背ラベルの記号: Iホ/I)
「ルリユール」は仏国の製本職人の事。その匠の技に見入ってしまいます。おじさん探しに行きたいなあ。(コト:W)

『トマトさん』福音館書店
田中清代 / 作 (Iホ/タ)
人にはそれぞれ個性があるということや、仲間の大切さを教えてくれ、なかなか奥が深いと思います。川に入った時の、トマトさんの気持ちよさそうな顔、必見です。(T)

『いいからいいから』絵本館
長谷川義史 / 作 (Iホ/ハ) ★
著者は「いいから いいから」で世界平和をまくろんでいきます(きっと)。なんでも許せてしまう、そんな気持ちになる1冊です(きっと)。(W)

『三びきのやぎのがらがらどん』福音館書店
マーシャ・ブラウン / 絵 せたていじ / 訳 (Iホ/グ)
三びきのやぎが谷川の橋を渡り、トロールと対決するお話。やぎの名前はみんな、「がらがらどん」。タイトルも絵もわくわくさせてくれます。(S)

『あおくとときいろちゃん』至光社
レオ・レオーニ / 作 藤田圭雄 / 訳 (Iホ/L)
まず色彩。無駄のない色使い。そして愛情があふれるお話。純粋でとぎすまされたセンスがこの1冊にまつまっています。(W)

『ぐるんぱのようちえん』福音館書店
西内みなみ / 作 堀内誠一 / 絵 (Iホ/コ)
あのビスケットおいしそう！これが小さい頃読んで思ったこと。そのままの自分を受け入れてくれる場所はあるんだな、これは今読んで感じたこと。(S)

『しろいうさぎとくろいうさぎ』福音館書店
ガス・ウィリアムズ / 文・絵 松岡享子 / 訳 (Iホ/イ28)
森で暮らす2匹のうさぎの、小さなラヴ・ストーリー。とってもやさしい「愛」の形を教えてくれる一冊です。(H)

『しろいみち』B.L出版
丸岡慎一 / 作 (Iホ/ワ)
静けさのなかにも、じんわりとあたたかさが染み込んでくる作品。パステル調の柔らかな色使いが話をいっそう引き立てます。画集としても見応えがあります。(S)



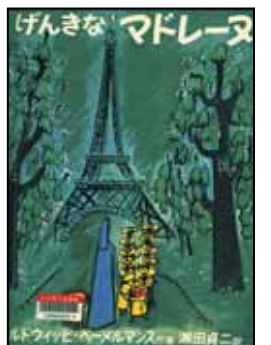
『しろいみち』



『かたあしだちょうのエルフ』



『あらまっ!』



『げんきなマドレーヌ』



『満月をまって』

図書館スタッフに訊く

絵本 わたしの1冊

子ども時代に読んだ絵本を読み返して、懐かしさであたたかい気持ちになったり、大人になって読んだ絵本がなぜか心に響いたり…。
絵本は子どもだけのものではありません。

子ども時代に読んだ絵本をもう一度手に取って、読み返してみませんか？
そのなかの文字が、絵が、あなたに何かを語りかけることでしょ。

『金曜日の砂糖ちゃん』偕成社
酒井駒子 / 作 (726.6/カ)

自分が子供の頃どんな目線で物事を見ていたのか考えて、懐かしいような少し寂しいような気持ちになる絵本。酒井さん独特の雰囲気のある絵が好きです。(I)

『かたあしだちょうのエルフ』ポプラ社
おのきがく / 文・絵 (J/913/イ35)

本当の強さや優しさを教えてくれる絵本です。勇気を出したい時、自分を奮い立たせたい時にぜひ読んでみてください。(K)

『11びきのねことあほうどり』こぐま社
馬場のぼる / 著 (Iホ/ハ)

コロケの店をはじめた11びきのねこたち。毎日コロケ攻めにあったねこたちの所へ、1びきのあほう鳥がやって来た！そして…ニヤゴニヤゴシーツ。(N)

『あらまっ!』小学館

ケイト・ラム / 文 エイドリアン・ジョンソン / 絵 石津ひろ / 訳 (Iホ/ウ)
おばあちゃんと男の子の、あっと驚く攻防戦！おばあさんを題材にした絵本は数あれど、これほど奇想天外なお話は他に知りません。ページをめくる度にびっくり！(T)

『ジス・イズ・ロンドン』ブルース・インターアクションズ
ミロスラフ・サセック / 著 松浦弥太郎 / 訳 (Iホ/ウ)
旅行案内の絵本『ジス・イズ〜』シリーズの1冊。イラストからはその土地の空気がよく伝わってきます。実際に旅をした作者の視点も楽しい、大人にも魅力的な絵本です。(O)

『げんきなマドレーヌ』福音館書店

ルドウィッヒ・ベーメルマン / 作・画 瀬田貞二 / 訳 (Iホ/ハ)
愛らしい絵と、おどり出しそうなテンポのよい文体。両者がとてもよく調和している絵本だと思います。リズムのよい言葉がとても心地良いです。(T)

『おふるだいき』福音館書店
松岡享子 / 作 林明子 / 絵 (Iホ/イ1970)

小さい頃、おふる嫌いだった私のために母が買ってくれました。これで私もおふるだいきに・・・とはなりませんでしたが、この絵本は今でも大好きです。(T)

『満月をまって』あすなろ書房

メアリー・リン・レイ / 文 パーバラ・クーニー / 絵 掛川恭子 / 訳 (Iホ/L)
それはそれは丁寧に描かれたクーニーの絵が好きです。自分自身で考えることの大切さが静かに伝わってきます。(S)

『カえるくんのたからもの』Tri-M

田中章義 / 作 とりごえまり / 絵 鈴木ほのか / 朗読 (C/J02/オ/1)
落とし物の携帯電話を届けに初めての旅に出たカえるくんが、いろんな体験をしながら自分が持っている大切な宝物に気づきます。お話をイメージした歌や音楽も楽しめる絵本付きのCDです。

『葉っぱのフレディ -いのちの旅-』東芝EMI

レオ・バスカーリア / 作 みらいなな / 訳 森繁久彌 / 朗読 (C/G08/E/1)
季節がめぐっていくごとに、生まれては散って土に還るとい葉っぱの一生。森繁久彌の朗読と東儀秀樹の音楽が織り成す、朗読CDです。



4階音と映像コーナーにございます。

『れおんじ村のメルヘン畑』Vol.1より「ずーっとずーっとだいきだよ」日本コロムビア
ハンス・ウィルヘルム / 絵・文 久山太市 / 訳 森本レオ / 演出・朗読 (V/726/L/1)
ぼくが生まれたときに犬のエルフィーも生まれ、一緒に大きくなりました。大切な相手に気持ちをはっきり伝えること、愛情を注ぐことの大切さを描いています。

『うまのおはなし2』日本レーシングサービス

古川タク、夏目尚吾 / 絵 稲川淳二、北川チエ / ナレーション 日本馬事協会 / 企画 (V/388.1/ウ/2)
幼い兄弟の飼っていた赤毛の馬のチカリが、洪水から村を救ったという群馬県に伝わるお話など、馬にまつわる2つのおはなしのビデオです。

子供の頃の感覚を掘り起こすための糸口。 雑貨。ポップな色使いが多いので、お部屋のインテリアとして使える。 絵本ってアートだと思う。 時に“迷っている時の答え”になるやさしい哲学書のようなもの。

絵と文章と、一粒で二度おいしいもの。

癒され、優しさをくれるもの？

疲れた時

落ち込んだ時

気持ちをまあるく

温かくしてくれるもの。

ストーリーは覚えていなくても、頭のどこかにすりこまれているもの。

いくつになっても色褪せないもの。

心を育む養分。

「懐かしさ」を感じられる宝物。

日常から自分を解き放ち、大切なものを気づかせてくれるもの。

自分へのこぼれ。

たまに見てほっとする！何度も読む絵本は宝物です。

すぐ読める本。だからこそ何度もめくってみたくなるもの。

大人になっても心が癒される栄養剤みたいな存在。